

Gifu Keizai University **GKUN** 岐阜経済大学マガジン

vol.
74

2010.JANUARY

【特集】②

自分の夢実現のために!

- ⑥ キャンパス・スポット「岐経祭2009」開催!
- ⑧ 輝け! アスリートたち
- ⑩ キャリア支援課だより
- ⑫ 教育最前線
- ⑬ 研究室だより
- ⑭ キャンパス彩々
- ⑯ 学内ゼミナール大会開催/教員人事





スポーツ経営学科
3年
山本 達也

「岐阜ってどこ？」
その言葉を耳にする度に、
心の中でため息が漏れる。
いつか、その言葉が世界中
から消えるように、日本にお
ける「岐阜」の価値を向上させ
ること。

これが私の夢である。
岐阜県をホームタウンとす
るプロサッカークラブであ
る「FC岐阜」には、日本にお
ける「岐阜」の価値を向上させ
るなど、私の故郷である岐阜
県をより良い方向へ導ける可
能性が詰まっている。だから
こそ私は、FC岐阜を運営す
る(株)岐阜フットボールクラブ
に就職したい。

さて、そんな私の学生生活
は、FC岐阜を中心に回って
いる。
「目標は大きく、やることは
地道に。」をモットーに、簿記
やスポーツ指導者等の資格の
勉強やアルバイトにも精を出
しているが、一番は、やはり
FC岐阜。このクラブのホー
ムゲームのボランティアを毎
試合していたら、自然とそう
なった。始めたきっかけは、ボ
ランティアをしてスタッフの方
と知り合えば、就職の近道
になると思ったから。

私は公式記録員という役
をやらせてもらっている。
試合を見ながら「〇番シュー
ト」「〇番ファウル」と声をだ
し、またパソコンにそれらを
含むデータ入力を行う。得点
者、得点に至るまでの経過、各
チームのシュート数計測、交
代選手の確認など作業は多
い。しかし、60代の大人とも
サッカー話で通じ合える。

五輪代表監督にも会える。
全国のJクラブのスタッ
フ、ボランティア仲間との輪
も広がる。
何より、ゲームに勝利した
時の喜びに、ホームゲーム運
営を支えきった喜びが加わ
り、そして、その喜びをスタッ
ム全体で分かち合える。
もうヤミツキである。毎週、
お祭りのように盛り上がるの
は、Jクラブが存在する
ホームタウンにのみ許された
特権だ。もともとと多くの
岐阜に縁ある方た
ちこの喜びを分
かち合いたい。

そして、そのう
ち「岐阜に行きた
い」って、世界中
で言わせてやる。



全国に「岐阜」を知らしめる!
～FC岐阜でのボランティア活動を通じて～

実現のために!

在学生たち、それぞれの思いや
活動を紹介します。

**人とのつながりの大切さを学び、
これからの出会いを楽しむ**



コミュニティ福祉政策学科
(健康福祉コミュニティ学科)
4年
清水 友哉
(揖斐高校出身)

私は、岐阜経済大学のまち
な研究室「マイスター倶楽
部」に所属している。
私が、マイスター倶楽部で
学んだ事は3つある。

まず1つ目に、マイスター倶
楽部の代表として他の学生を
動かすことはもちろんの事、
マイスター倶楽部全体を動かす
運営力を学んだ。はじめは思っ
ようになく、どうすれば
良いのかと考え、悩まされた。
何も分からない自分を見守っ
てくれた方々のおかげでここ
まで来られたと思う。

そして2つ目に、マイス
ター倶楽部の「土まるけネット
ワーク(通称TMN)グループ」
に入ったことで、揖斐川町で農
作業を行い大垣のまちなかで
販売をするという生産から販
売までの流れを学んだ。それだ
けではなく、揖斐川町で自然と
のふれあいの大切さも同時に
学ばせてもらった。

がりから、自分の将来につな
がるという事もある。だから、人
と人とのつながりは大切だと
いう事を学んだ。

私が思うマイスター倶楽部
とは、人の成長の場であると思
える。
何故ならば、今の自分がある
のは、マイスター倶楽部での
先生方はもちろん同級生、後
輩、揖斐川町で出会った農業ボ
ランティア達、そして、大きな
存在であるOBの先輩方や揖
斐川町のおじさん・おばさん
など、多くの方々に支えられ
何も分らない私に様々な経
験をさせてくださったおかげ
だから。私はマイスター倶楽部
には感謝でいっぱいだ。こんな
マイスター倶楽部を、もっと経
大生に知ってもらいたい。

残りの学生生活で、後輩た
ちも成長できるように何か残
して卒業が出来るれば悔いは無
いだらう。
卒業後の私は、名古屋で環
境問題に取り組んでいる団体
に就職が決まった。そこで、
TMNでやってきた事とマイ
スター倶楽部で学んだ事を十
分に活かしてこれからも成長
したいと思う。

最後に、私の財産は「人」で
ある。
今まで出会った人、これか
ら出会う人、様々な人がいると
思う。この出会いの一つ一つを
大切に、日々学び、成長の場
として生きていきたい。



スポーツ経営学科
4年
濱川 円
(南部商業高校出身)

私の夢は中学の体育教師です。子どもが好きで、教えるのも好き、子どもに影響を与えられ、一緒に成長できる仕事だからです。この大学には、幼いころからの夢を実現するために入学しました。9月にあった教育実習では「先生」とたくさん生徒から呼ばれ、涙あり笑いありの充実した1ヶ月でした。実習は、私が想像していたものとは全くかけ離れており、つらいことや悩み、疲れ、戸惑いなどたくさん苦労がありました。しかし、その100倍楽しみや喜びがあり、立ち止まっていられないほど時間がすぎていきました。その中で、1ヶ月間一緒に走ってきた、陸上部の生徒との思い出が印象的でした。早朝から日が沈むまで全体的練習し、終わってからの個人練習など大会に向けて汗水

流してきました。集大成となる地区大会では、練習の成果を発揮し、上位入賞・自己記録更新と、猛暑の中走っている彼らの姿を見て感動の二文字しかなかった。実習の方も研究授業が成功し達成感を覚え、再度「自分は教師にしかない！」と心に決めました。今は、来年の採用試験合格に向けてひたすら勉強に励んでいます。疲れたり怠けたりになると、生徒達からもらった色紙の声援に励まされます。

大学の4年間はあっという間で、志・やる気・目標を持たないと無駄な日々になります。卒業式の日に「この大学に来てよかった」と言い切れるよう、勉強はもちろん、部活、バイト、遊びと充実した4年間にしたいと思っています。

中学の体育教師めざして!

特集

自分の

夢

今しかできないこと、今だからできること ～新聞奨学生で夢に向かって!～



スポーツ経営学科
3年
宮崎 美輝
(四日市商業高校出身)

私の1日は新聞配達から始まります。朝3時半に起きて2時間の配達業務、その後広告の折り込み作業をして7時半頃に仕事が終わります。そして寮のみんで朝食を食べます。1限目から学校があるので、一休みする暇がありません。月末には集金業務もあるため、朝から夜まで大忙しです。雨の日も風の日も、熱があっても休むことなく毎日配っています。

このように新聞店に住み込みで勤労学生として学費を賄っている学生を新聞奨学生といいます。配達・集金・折り込み・広告PR・号外配りなど仕事はたくさんありますが、これらをこなすことで学費・給料・食事などの生活面が保証されるという制度です。この制度は一般的な奨学金制度とは違い、学業と勤労を両立させることで卒業後の返済は必要ありません。

私は高校3年の進路選択時、岐阜経済大学のスポーツ経営学科に入って教員の道に進みたいと思いました。しかし大学の学費に加え、三重の実家を出て下宿するには、親に経済的負担がとてもかかります。そんな時、私はこの制度を知り、自分の夢に一步近づけたと思い、やる気がみなぎってきました。その新聞店では前例のなかった女子学生の新聞奨学生も、何度も何度も私の決意をお話して認めていただきました。

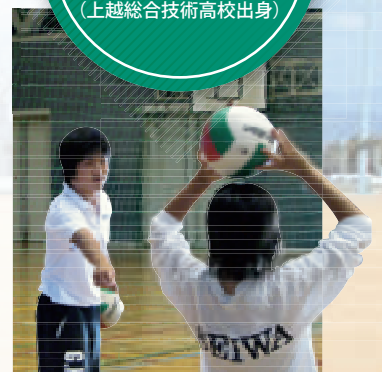
「今しかできないこと、今だからできる事を精一杯やる。与えられた環境の中で自分らしく楽しんで生きる」これが私のモットーです。やらずに後悔するより、とことんやってその結果失敗したらそれでも、自分が納得できたならそれでいいと思います。「自分の人生は自分で切り開く!!」新聞奨学生を経験して得たことは、将来自分の大きな力となると思うので、残り1年も頑張っていこうと思います。

夢のスポーツ関係企業に内定!

内定
株式会社
アクトス



スポーツ経営学科
4年
深石 佳佑
(上越総合技術高校出身)



「課外体育サポーター」として
近くの中学のバレー部を指導。

岐阜経済大学に入学して4年間の大学生活も終わろうとしています。この4年間の大学生活の中で、様々な出来事、思い出、沢山の経験をさせていただきました。スポーツ経営学科の一期生として入学し、将来は、高等学校の体育教師がスポーツ関係の企業に就職できればと考えていましたが、7月にスポーツクラブ会社であるアクトスの方から内定をいただきました。

何に注意しなければいけないのか、質問に対してどのよう
に返答をすればよいのかなど、毎日のようにキャリア支援課に通い事務スタッフの方に助けていただきながら練習を行いました。そのお陰で面接は緊張することなく会話ができ、企業から内定もいただくことが出来ました。

私は、小学校時代から様々なスポーツを経験してきました。現在はバレーボールを専門として取り組んでいます。スポーツのどんなところが好きかというと、ただ単に身体を動かすことが好きということもありますが、練習でやっていることが試合では通用しないこともあり、そんな時は毎回違うプレーを臨機応変に行い、勝つ為に考えて動くということが楽しいのです。またその活動の中で、礼儀やコミュニケーションの大切さを学んできました。挨拶や言葉遣いは社会に出る前に必ず身に付けてはならないものです。どの企業も勉強が出来ない人を採用する訳ではないと

バドミントンを通じて繋がった 仲間の支えが原動力に

内定
グンゼ
スポーツ
株式会社



スポーツ経営学科
4年
上田 悠
(南砺総合高校出身)

私は、幼い頃から体を動かすことが大好きでした。大学への進路を決める際にも、スポーツに関わることの出来る仕事に就きたいと考え、様々な可能性を感じたこの大学を選びました。

大学では様々なことを学びました。スポーツの奥深さ、経営学の面白さを感じました。勉学以外にも、部活動に、学園祭実行委員会にと充実した時間を過ごしてきました。そして、アルバイトでは、大学近くのスイミングスクールで、インストラクターの仕事をさせていただきました。

スイミングスクールでは、幼児から中学生までのジュニアのクラスで指導させてもらいました。子どもが大好きな私にとって子どもたちと過ごせる時間は本当に楽しかったです。子どもたちに出会う度に、たくさんの笑顔に出会うことができました。子どもたちとこんなに近くで接することが出来、会うたびに成長していく姿をみるこの出来るスイミングでの仕事を自分のこれからの仕事にしたいという気持ちを持つようになりました。就職活動を始めて



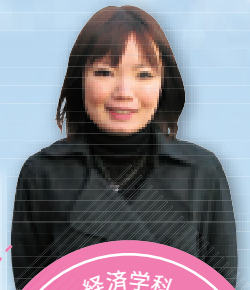
スイミングスクールの子どもたちと

からも、フィットネス業界にこだわって活動していました。就職活動は、上手いかなかったことの方が多かったです。落ち込むことも、悩むこともたくさんありましたが、その度に周りの方々に支えられました。特に、部活のメンバーには気持ちの面で力になってもらいました。部員と話をしたり、バドミントンをしたりすることで、「もっと頑張らなきゃ!」と次の活動への力にしています。何があっても私のそばで支えてくれる部員みんなにはとても感謝しています。そんなみんなと私を結びつけてくれたのはバドミントンというスポーツでした。スポーツはたくさんの人たちを結びつける大きな力を持っていると思います。スポーツを通じて、様々な世代の方と、同性異性問わず、交流を深めることが出来るって、とっても楽しい、素晴らしいことだと思えます。そんなスポーツの素晴らしさや楽しさを、これからはたくさんの方に伝えていきたいと思っています。アルバイトでの経験を活かし、周りの人の力とされるよう頑張ります。



私なりに開発途上国の人々の自立を支援したい!

～フェアトレード普及をめざして～



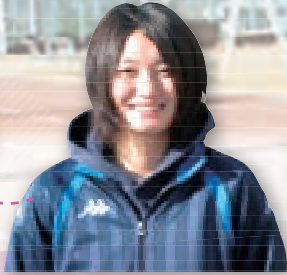
経済学科
4年
有坂めぐみ
(大月短期大学より編入)

私は今、フェアトレードの普及を目指して研究している。スーパーに行くところ、紅茶、雑貨、衣料品などアジア、アフリカ、中南米などの開発途上国で作られた商品が多いが、非常に安く売られている。その原因の一つは、政情が不安定な中で経済的に自立しようにも抜け出せない国があることである。こうした国の人々は働いても貧困から抜け出せず、子どもたちまで働かされ、学校へ通うこともできないでいる。フェアトレードとは、開発途上国の人々の自立を支援する取り組みだ。私は以前「フェアトレード」に関する本を読んだ。興味を持った。フェアトレード商品は開発途上国の人々を支援する他、体や環境にも優しいのだ。何で合理的で良くできた仕組みだろう。



私は、一人でも多くの人にフェアトレードを知ってもらい、大垣に普及させることを考えた。そのために、フェアトレード活動に取り組む他大学やフェアトレードショップへの視察をした上で、マイスター倶楽部の野菜販売の際に実験的にフェアトレード商品を販売した。足を止めるお客様にフェアトレードのしくみを説明し、ボードやポップでアピールした。さらに、揖斐川町の野菜とフェアトレードのカレースパイスを使い、カレーの試食会を行った。今年の大学祭ではフェアトレードについての展示を行い、フェアトレード商品も販売した。チョコレートを買っていく人が多く、フェアトレードを知ってもらおうときっかけとなった。しかし、フェアトレードを普及させるためにはまだまだ取り組みが必要であると実感している。卒業後も職場や自宅でフェアトレード商品を使うなどして周りの人々に広めていきたいと考えている。

スポーツ経営学科
3年
堀田 茉希
(鈴鹿高校出身)



経営情報学科
(現 情報メディア学科)
3年
村井 識頭
(岐阜工業高校出身)



3年前に始めたボートに夢中!

私は岐阜経済大学に入ってからボートを始めました。最初は、「入るなら頑張っているサークルが良いな」という軽い気持ちで入りましたが、ボートは奥の深いスポーツで、すぐに軽い気持ちでしていたら頑張っている人に失礼だと思うようになりまし。私は中学・高校と柔道をしてきたので体力には自信がありました。使う筋肉も体の使い方も全く違い、練習になれるまで体が痛い毎日でした。

特に冬の漕ぎ込み、エルゴメーターでの12キロメートル練習がハードです。でもボートを始めて嬉しかったことは、自分が限界を作らなければ限界がないということに気がされたことです。ボートは200メートルをただ全力で漕ぎきる競技なので、速く漕げば漕ぐほど早く終わります。もっと速く漕げるはずだと練習すれば自分が信じられないほど、艇は進みます。しかも今の自分が前の自分を超越することがタイムではっきり出るので、次も頑張ろうと思えます。

今一番の目標は、高校で言うインターハイの大学版である「インカレ」で優勝することです。いつも自分も支えてくれる指導陣の方々やマネージャー、先輩や後輩、そして両親に結果で返したいです。今年はインカレで5位、国体で4位と悔しい順位で終わってしまったので、来年こそは表彰台の一番上で笑えるように今年の経験を活かして、毎日コツコツ練習を積み重ねていきたいと思っています。

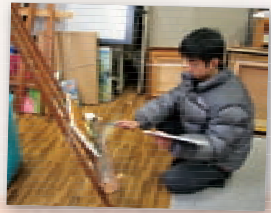


情報とデザイン関係の授業が好き! 学生諸君、大学をもっと活用しよう!

私は工業高校卒業後、就職の経験がありますが、自分の見解と知識が浅いと思い始め、大学へ進学した友人に感化されたこともあって、大学進学を決意しました。私が岐阜経済大学に決めたのは、自分の興味のある情報関係授業のほかに、デザイン関係の講義があることが魅力的だったからです。しかも社会人入試よりも学費をおさえる事ができたので助かりました。

私の大学生活を少し紹介しますと、サークルは美術部とソフトラビア研究室を掛け持ちしています。美術部ではこの機会に油絵を経験したり、ソフトラビア研究室ではシステム開発の一部に関わらせてもらいました。大学の講義は情報関係の講義を中心にデザイン関係の講義を中心に単位を修得しています。情報関係の講義は、あらかじめ別の講義の単位を修得しておかないと受けられない講義もあったので、計画的に習得していくよう心がけました。

入学後に取得した資格に、漢字検定2級、パソコン検定準2級、現代経済検定1Tパスポート検定があります。現在の目標は卒業までに基本情報技術者試験に合格することです。私は、大学では講義を受けて単位を修得するという目的だけでは、時間も学費ももったいないと思います。サークル活動や課外活動もありません。最後に、一度社会人になると、なかなか自分の趣味や勉強などに時間を割くことが難しくなります。普段からその習慣が無ければさらに難しくなります。それらを踏まえて自分はどうしたいか、考えることも必要だと思います。



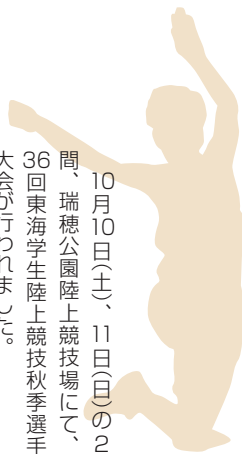


東海学生秋季大会にて 5種目で優勝!

瑞穂公園陸上競技場 2009.10/10-11

10月10日(土)、11日(日)の2日間、瑞穂公園陸上競技場にて、第36回東海学生陸上競技秋季選手権大会が行われました。

秋空の下、本学陸上競技部トラックシーズンの締めくくりとして、130名が出場し、5種目(男子100m、4×100mリレー、4×400mリレー、男女走幅跳)で優勝を飾り、東海学生に本学の存在感を十分アピールしました。4年生の多くは今大会で引退を迎え、生き生きと競技することで、有終の美を飾る感動的な大会となりました。そして、下級生は先輩の意志を受け継ぎ、既に来シーズに照準を向けています。



輝け!
アスリートたち

男子走幅跳 この種目では1位～3位まで本学で表彰台を独占。

- 優勝 浜口 朋幸 (スポーツ経営学科4年 袋井商業高校出身)
- 2位 前出 卓也 (スポーツ経営学科4年 四日市工業高校出身)
- 3位 南方 邦宏 (経済学科4年 笠田高校出身)

女子走幅跳 2年ぶり2回目の優勝。

- 優勝 田中 結花 (スポーツ経営学科3年 北陸高校出身)

男子100m 大学最終レースで他を圧倒して2年ぶり2回目の優勝。

- 優勝 小山 真輝 (スポーツ経営学科4年 龍谷富山高校出身)

4×100mリレー 4×100mリレーは3年ぶり3回目の優勝。

- 優勝 鈴木 翔太 (スポーツ経営学科4年 浜松商業高校出身)
- 小山 真輝 (再掲)
- 坂山 翔一 (スポーツ経営学科4年 洛北高校出身)
- 大川 光 (スポーツ経営学科4年 栄徳高校出身)

表彰式のプレゼンターとして、東海学連評議員である本学小倉新司客員教授(陸上競技部総監督)が3名の選手に表彰状を渡しました。



陸上競技部
TRACK AND FIELD

4×400mリレー 4×400mリレーは5年ぶり2回目の優勝。

- 優勝 小山 真輝 (再掲)
- 塩満 純一郎 (スポーツ経営学科4年 洛北高校出身)
- 島田 高宏 (スポーツ経営学科4年 尾鷲高校出身)
- 大川 光 (再掲)

男子400m

- 3位 大川 光 (再掲)

三段跳

- 2位 西川 祐也 (経営情報学科 現情報メディア学科3年 高島高校出身)

やり投

- 3位 中口 裕記 (経営学研究科2年 近畿大学工業高等専門学校出身)

水泳競技(飛込)

上野 健二(スポーツ経営学科1年 彦根工業高校出身)

上野さんのコメント
 去年の高校生としての出場と比較し、今年の成年の部のレベルの高さに驚きました。
 今回は練習が1ヶ月しかできず、十分に力を発揮できなかったため、来年に向け、この時期からトレーニングを始め、今年以上の成績をおさめたい。

9月13日(日)〜16日(水)まで長岡市のダイエープロビスフェニックスプールで行われた水泳(飛込)競技。鋭い判断力と高度な技術を要する「自由選択飛」で行われ、飛込台から水面までの技術と優雅さを競い、得点により順位を決定します。上野さんは固定された台から飛び込む高飛込と、弾力を持つ飛び板を利用した飛板飛込の両種目の決勝に出場しました。

本学学生が第64回国民体育大会に出場しました。

10月6日まで、新潟県で開催された第64回国民体育大会(トキめき新潟国体)に本学学生が5名出場しました。

今井 祐樹(経営情報学科 現情報メディア学科4年 加茂高校出身)
 小川 竜子(スポーツ経営学科4年 八百津高校出身)
 堀田 茉希(スポーツ経営学科3年 鈴鹿高校出身)

ボート競技

9月27日(日)〜30日(水)の日程で、新潟県立津川漕艇場で行われたボート競技。国体で使用される競漕艇は、舵手つきフォア、舵手つきクオドルプル、ダブルスカル、シングルスカルの4種類あり、そのうちの成年男子ダブルスカルの岐阜選抜チームに今井さんが、成年女子舵手つきクオドルプルの岐阜選抜チームのメンバーとして小川さんと堀田さんが出場しました。
 ダブルスカルは舵がなく、漕手は左右2本のオールで艇を直進させるため、高度な技術を必要とします。
 ダブルスカルは惜しくも敗者復活戦に破れ、準決勝へすすむことができませんでしたが、舵手つきクオドルプルは決勝へ進み、4位入賞しました。

陸上競技 小山 真輝(再掲)

10月2日(金)〜6日(火)まで新潟市の東北電力ビッグスワンスタジアムで行われた陸上競技。成年男子2000mと成年男子4×1000mリレーのメンバーとして小山さんが出場しました。
 2000mでは、予選を勝ち抜き、準決勝に進出するも、わずかに0.09秒差で惜しくも決勝進出にはなりませんでしたが、4×1000mリレーでは、難しいスタートを任されたトップランナーとしてスタート。富山県チームは惜しくも予選を勝ち抜けませんでした。小山さんは3年連続国体出場という、たいへん素晴らしい活躍をしています。



サッカー一部 SOCCER

東海大学サッカーリーグ最終節終了、リーグ1部に残留確定

エコパスタジアム
2009.11/29

- ① 浜松大(勝点43)
- ② 中京大(41)
- ③ 愛知学院大(38)
- ④ 静岡産業大(36)
- ⑤ 富士常葉大(23)
- ⑥ 東海学園大(19)
- ⑦ 岐阜経済大(18)
- ⑧ 三重中京大(16)
- ⑨ 愛知学泉大(12)
- ⑩ 四日市大(9)

(9位、10位のチームは入れ替え戦へ)



11月29日(日)、本学サッカー部は、エコパスタジアムにおいて、静岡産業大学と対戦しました。静岡産業大学は前期リーグで首位だった強豪校。しかし、結果は1対0で勝利、勝ち点を18に伸ばし、リーグ戦を終了しました。
 最終成績は、リーグ7位、一部残留が確定しました。高橋正紀監督が当初目標として掲げた5位以内には、やや及びませんでした。後期リーグは、主力の4年生がレギュラーを退き、3年生以下のメンバーで、善戦を繰り返しました。来シーズンは一層の活躍が期待されるそうです。
 1部リーグの最終順位は左記のとおりです。
 本年度皆様からいただきました応援に深く感謝いたします。
 なお、優勝、2位のチームは12月19日からの全日本大学選手権に出場しました。



硬式野球部 BASE BALL

東海地区選抜チームの一員として台湾遠征。本学の2選手活躍！

2009年度秋季 岐阜学生野球リーグ戦を振り返って

今秋はチーム内でのレギュラー争いを起爆剤に飛躍を期待したシーズンインでありましたが、投打がうまくかみ合わず5勝8敗勝点2、4位の戦績で終了しました。春季からステップアップしたものの課題を多く残したシーズンでありました。しかしながら儀間裕也(スポーツ経営学科1年 沖縄水産高校出身)が春に続き2季連続ベストナインを獲得、投手亀田裕也は3完封勝をおさめました。
 冬の練習・春季キャンプ等で課題を克服し、きたるシーズンにチーム一丸となって向かいます。

東海地区大学野球連盟創設35周年ならびに岐阜・静岡・三重3県リーグ発足10周年の記念事業として台湾遠征が行われました。
 11月28日(土)、記念式典が盛大に開催され同時に役員・選手25名の壮行会も行われました。
 遠征メンバーは29日早朝出発し、台北・台中を移動し4試合・3勝1敗の成績で12月3日深夜帰国しました。
 本学の投手・亀田裕也(スポーツ経営学科3年 甲西高校出身)は第2戦の中国文化大学(台湾大学内で常時優勝を争う強豪)戦に先発し5回を無失点に抑え勝利に貢献。内野手・大坪慎也(スポーツ経営学科3年 杜若高校出身)は台北市立体育学院戦等に2塁手として出場5打数2安打と攻守に活躍しました。
 また2選手の遠征のマナーの良さも随行役員に賞賛されました。
 この経験をこれからの大学生活に、チームに、大いに活かしてくれるものと確信しています。なお、この遠征には役員として塚田勝総監督も参加しました。



左から亀田選手、塚田総監督、大坪選手

就職活動支援イベント開催!

文部科学省 平成21年度学生支援推進プログラム・フォーラム& 岐阜県インターンシップ推進協議会成果報告会2009を開催しました。

スケジュール

第1部

文部科学省平成21年度学生支援推進プログラム・フォーラム

●基調講演「野球に学ぶ人材育成」

福田 功氏

プロ野球解説者、元中日ドラゴンズヘッドコーチ・元北京オリンピック野球日本代表スコーラー
現在 阪神タイガース球団本部編成部(調査担当兼スカウト) 課長

●採択事業説明「就活サークルと学生・OBメンター育成によるキャリア教育の充実」

竹内 治彦

岐阜経済大学キャリア支援部長

第2部

インターンシップ成果報告会

●事例発表



▲福田 功氏



▲竹内 治彦
キャリア支援部長

第一部では今年度本学が採択された文部科学省平成21年度学生支援推進プログラム・フォーラムを開催し、基調講演として、野球解説者の福田功氏から「野球と人材育成」と題した講演と、本学キャリア支援部長が採択事業での学生支援の取り組みについて報告しました。

福田氏は、自身の野球を通じた経験談を交え、小学校、中学校で持っていたコンプレックスをバネに、努力して身につけた技術力の話や、自分の考え方を大きく変えた先生の一言、数多くの野球選手を指導する中で伸びる選手の持つ特有の性格など、「人を育てる」をキーワードとした興味深い話を熱弁。参加している学生や企業の人事担当者などが熱心に耳を傾けました。

竹内キャリア支援部長は、本学が取り組んでいる在学4年生やOBが3年生の就職活動をサポートするメンター制度やリアルな就職活動体験をデータベース化して活用する方策などについて紹介し、たいへん関心を集めました。

続く第二部では、岐阜県インターンシップ推進協議会主催「インターンシップ成果報告会」を開催しました。

同協会は、岐阜県経営者協会が母体となり、主として県内の企業、学校、行政等と連携して、県内のインターンシップを推進する事業を展開し、その活動の一環として毎年各大学を会場にインターンシップ成果報告会を実施しています。

今年度は本学を会場に開催し、本学の学生2名をはじめ県内外大学から5名がこの夏インターンシップに参加した成果を報告しました。



山下 雄次さん
(経営情報学科
現情報メディア学科3年
飛騨高山高校出身) の報告

山下さんは高山信用金庫でインターンシップを行いました。特に個人情報セキュリティを万全にしていることや、自分が興味を持って勉強した簿記・会計を活かす部署でもある、企業などへの融資を検討する担当での業務経験ができたことを具体的に報告したことが印象的でした。



松下 文代さん
(スポーツ経営学科3年) の報告
(名城大学附属高校出身)

松下さんはヨツハシ(株)でインターンシップを行いました。この会社が発行している地域情報誌「ブラザ」の編集に関わり、「冷感性」の特集記事について案を出したり記事の切り口を考えたりという経験ができたことや、当初はスポーツ関係の記者の仕事に興味を持っていた自分が、他の様々な分野の話題に多く触れ、スポーツ以外にも興味をもつことができたことが、今後の就職活動を行う上でも大きな収穫となったと報告しました。

また、本学卒業生で、株式会社文深堂に就職した柴田匡美さんから、自らの就職活動を振り返った報告をいただきました。

インターンシップや先輩の助言の重要さや、自分の興味のあることだけでなく、興味なかった分野に対しても自分の考え方や感じ方次第で興味が広がってゆくという貴重な話をいただきました。

金融セミナーを開催しました

キャリア支援課では、今年も就職戦線を目前に控えた3年生を対象に10月から11月にかけて金融セミナーを開催し、6回シリーズに42名の学生が参加しました。

セミナー参加者は、金融機関を志望する学生ばかりではなく、他業種を志望する学生もいて、敵しさが予想される就職戦線に向け、一歩先に踏み出そうと考えた学生が参加しました。金融機関の仕事や役割、金融・経済用語や環境だけでなく、金融機関の人事担当や金融機関に勤務する本学OBの方々から直接話を聞く機会もあり、何を準備して就職活動を行っていくべきなのかなど大いに参考になったはずで。

また最終回では、日本銀行名古屋支店と日興コーディアル証券名古屋支店の見学と勉強会を実施し、参加者の視野を広げました。



「就職活動特別講座」と「学内企業セミナー」を開催しました

3年生を対象に12月5日(土)6日(日)の2日間をかけて就職活動に向け自己分析等を身につける就職活動特別講座を開催し、続いて12月11日(金)12日(土)には61社の企業・団体様の参加をいただき学内企業セミナーを開催しました。雇用環境に敵しさが続いている折、例年2月に実施している学内企業セミナーを、本年度は業界研究も兼ねて、学生の皆さんに早いスタートの必要性を自覚してもらおうべく12月に開催しました。

就職活動特別講座は45名、学内企業セミナーには2日間で約250名の本学学生が参加しました。就職活動特別講座では履歴書の書き方や面接練習も行い、一歩前に踏み出す自信が持てたと思います。学内企業セミナーでは、今年の傾向として学生ひとりあたりの企業ブースへの訪問数が増えたことが大きな特徴です。開催時期が早く業界を絞りきれないこともありますが、企業の採用数減少で出来る限り幅広く業界を知っておこうと意欲的に望んだ学生が多数いたためと思われる。

就活用語

SPIって何?

インターネットでのエントリーが一般的になり、応募者多数となる今、最初から全員と面接することが不可能な企業が、応募者を絞り込むために筆記試験やエントリーシートで絞りこみます。多くの企業ではマークシート式の試験→作文試験→面接試験の三段階を課します。SPIは、このうちマークシート式試験の一種で、知識があるかないかを知るための「一般常識試験」と共通のもの。しかしSPIは、考える力や知能を試すような試験として作成され、基礎能力や性格適性の検査をするという点が一般常識試験と大きく違います。

SPIとは、Synthetic Personality Inventoryの略です。直訳すると総合人物調査です。さらにSPIという試験(NはNewの意味)、つまり新しいタイプの総合人物判定もあります。

その筆記試験にこのSPIを使用されていることが多いのです。

内容は大きくわけると3つに分かれています。

*言語能力：文章をかくことや表現すること、言語を理解することなどの能力

*非言語能力：仕事をする上で欠かせない数量的処理能力

*性格適性：仕事内容への向き不向き
内容は中学3年生レベルで、ボーダーは約6割の正解。

SPI試験

言語能力を判定する試験の1例

- 「姑息」の語句の意味を次の中から選びなさい。
A. 卑怯であること
B. 姑の息子のこと
C. 意地が悪いこと
D. 未熟であること
E. その場しのぎであること

非言語能力を判定する試験の1例

- 30円切手と50円切手を合わせて30枚買うと合計金額が1160円になった。30円切手は何枚買ったか。
- 数列{45、15、5、5/3、()、...}がある。()にあてはまる数字はいくつか。

経済産業省が委託する 研究事業に採択 されました。

本学では、今年度、経済産業省の「地域総合型健康サービス産業創出事業」に、「ケーブルテレビの利活用調査」で採択され、健康サービス産業の創出に向けた調査研究を行っています。その柱の一つが、行政、サービス事業者が参加した西濃地域健康サービス産業創出研究会になりまます。

〈事業の概要〉

経済産業省が、2009年度、地域総合型健康サービス産業創出事業を募集したのに対して、岐阜経済大学が実施主体として、(株)共立総合研究所、サンテン(株)とコンソーシアムを組織し、「健康サービス産業創出に向けたケーブルテレビ利活用調査」として応募し採択されました。

安易に医療(や介護)に依存するのではなく、地域の市民が自立的に健康への意識を持ち、疾病予防、介護予防に取り組むためのサービス産業を地域で育てようという事業です。岐阜経済大学は、全国の様々な地域で、それぞれの特長に応じた手法で、ケーブルテレビを通じて健康情報をやりとりしながら、健康を維持するビジネスモデルを構想し、提案する予定です。

なお、研究会には、コンソーシアムの各団体のほか、岐阜県西濃振興局、大垣市役所、(株)テリカスイト、(株)大垣ケーブルテレビが参加、ケーブルテレビを利活用しながら、地域の健康サービスを展開する仕組みづくりについて研究しています。本学経営学部の竹内治彦教授が中心となり、研究を進めています。

日経グローバル全国大学の地域貢献度 ランキングにランクインしました

日経グローバル(日本経済新聞社の調査研究部門、産業地域研究所が発行する地域情報専門誌)09・11・16発行136号に、全国大学の地域貢献度ランキングが掲載されました。

本学は総合ランキングでは85位と昨年より後退しましたが、個別のランキングでは左記のとおり上位に名を連ねました。

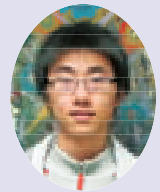
- 私立大
上位ランキング
328大学中 **23**位
- 大学設置形態別
上位ランキング
(経済・経営・商業系)
42大学中 **5**位
- 「住民・団体」項目
上位ランキング
469大学中 **26**位



この調査は各大学の地域貢献度を様々な観点で測るとしており、大学へのアンケート項目は以下のとおりでした。475大学が回答し、その分析をもとにランキングが発表されました。

- ★大学の組織・制度に関連する質問
- ★学生の地域内就職やインターンシップ実績
- ★企業・団体・行政に関連する設問
- ★市民・住民グループへのサービス度

海外教育協定大学から留学生を迎えました。



呂 航 さん(経営情報学科 現情報メディア学科に所属)は、本学と教育學術交流協定を結んでいる江西師範大学からの留学生です。2009年9月より本学で1年間の留学生生活を送ります。

私は、中国の江西師範大学で、日本語と国際貿易を学んでいる3年生です。日本へは、両親の強い勧めもあって、留学を決意しました。

空港に降りたときからとても緊張していたのですが、迎えてくれた先生や岐阜経済大学の留学生の皆さんがとても優しくしてくれて嬉しかったのが印象的です。

学生課の先生に、日本食のさしみを食べに連れて行ってもらった時、生まれて初めて食べる生の魚には驚きましたが、何度か

日本食を食べて、今ではかなり慣れてきました。特に「えび」は美味しと思っています。私の父がジャーナリストで、カメラを廻して映像を撮る仕事をしている影響か、以前から写真を撮るのが好きです。主に雄大な自然を対象にした写真です。他には実は日本のコミックやアニメにも興味があり、特に「ワンピース」「NARUTO」シリーズなどが好きです。中国にも中国語に翻訳されたコミックがありますよ。

私はこの大学での留学中に、勉強もそしてサークル活動などの交流もどちらも重視したいです。勉強面では、今特に、簿記に苦戦していますが、絶対に合格したいと思っています。またサークルはバスケットボール部に参加しています。皆とても上手いので、早く皆と一緒にボールを追いかけられるレベルにまでなっていて、思い切りパスケがやりたいです。

近著紹介

岐阜経済大学研究叢書15 市場と恐慌

資本主義経済の安定性と不安定性
高橋 勉 准教授
法律文化社
2009年12月



本書は、マルクス経済学の方法を用いて景気循環を理論的に考察、労働力・生産物・金融の3つの市場メカニズムの解明と資本主義経済の本質に迫る。マル経内の対立の克服をめざし、新たなマルクス派恐慌論の構築を試みるものである。

ホームレス支援における 就労と福祉

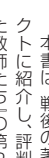
山田 壮太郎 准教授
明石書店
2009年9月



本書は、1990年代後半以降、政府が推し進めてきたホームレス対策の実態を、就労と福祉の両面から包括的に分析したものである。就労支援、福祉的支援とも十分な成果が上げられていない現状を明らかにし、今後の対策のあり方として、居住場所の無条件保障、効果的な就労支援、生活保護の役割の強化を提言した。

時代を拓いた教師たちII

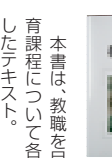
渡辺 貴裕 准教授 共同執筆
(株)日本標準
2009年10月



本書は、戦後の著名な教育実践をコンパクトに紹介し、評判になった「時代を拓いた教師たち」の第2弾。国際理解教育から夜間中学まで17の実践を掲載。渡辺准教授は「第1章2 鳥山敏子とイメージの世界―生き生きとしたからだをとりもどす」を執筆。

よくわかる教育課程

渡辺 貴裕 准教授 共同執筆
ミネルヴァ書房
2009年7月



本書は、教職を目指す大学生向けに、教育課程について各項目見開き2頁で解説したテキスト。渡辺准教授は「VIカリキュラムと教育環境」IX教科のカリキュラムの6音楽科のカリキュラム「X 図画工作・美術科のカリキュラム」X教科外カリキュラムの「5特別活動」を執筆。

中村敏雄著作集 別巻 中村敏雄の人と仕事

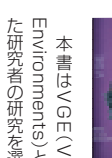
神谷 拓 講師 共同執筆
創文企画
2009年7月



本書は、戦後の体育科教育学やスポーツ文化論の研究にあぐら、優れた業績を残してきた中村敏雄氏の人物や仕事の内容を解説したものである。神谷講師は第9章「中村敏雄の人と仕事」*関係者の書き下ろし「において」近代と運動部活動を執筆。

VIRTUAL GEOGRAPHIC ENVIRONMENTS

杉原 健一 教授 共同執筆
Science press
2009年7月



本書は「VE(Virtual Geographic Environments)」の国際学会で発表された研究者の研究を盛り出し、まとめたもの。杉原教授は第9章「IA GIS and CG Integrated System for Automatic Generation of 3-D Building Models based on a Digital Map」において「電子地図に基づいた3次元建物モデルを自動生成するCG-VEの統合型システム」の内容を執筆。



大学研究室発のソフトウェアが 数多くできるような教育を

経営学部教授 **杉原 健一** 先生

世界最大のCGの祭典 SIGGRAPHに参加・発表

世界最大のコンピュータグラフィックス(CG)の国際会議であるSIGGRAPH(シググラフ)の国際会議であるSIGGRAPH。昨年よりSIGGRAPH Asiaが始まり、今年は、横浜で12月16日から19日まで開催されました。SIGGRAPHでは、我々が日頃、目しているハリウッド映画やディズニー映画のCGを作っている一流のアーティスト、研究者が集まり、発表します。私も、CGを研究していますので、このCGの祭典であるSIGGRAPHには、何度も論文を投稿しています。過去、2回、リサーチポスター論文に採録され、参加、発表しています。今回の横浜のSIGGRAPH Asiaでは講演発表する機会(Sketch)を得ました。

今や映画やテレビのCM、ゲームの世界では、CGが主役の時代です。特に、ハリウッド映画の一流のCGアーティストは、映画俳優に負けない報酬と知名度を誇ります。今まで参加したSIGGRAPHで印象的だったのは、2006年のポストンでの開催で、ハリウッド映画「パイ



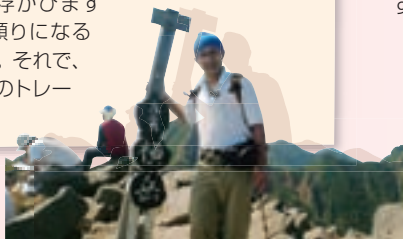
PROFILE

1953年愛知県小牧市生まれ、父親の仕事(新聞記者)の関係で、中部地区を転々とし、小学校は4つ、中学校も4つ違う学校に通う。1979年、名古屋大学の大学院修士課程を修了し、電機メーカー(松下電器とソニー)に10年勤める。その後、教師に転向して、20年以上になる。1999年から2年ほど、母校の名古屋大学へ社会人ドクターとして研修し、博士(工学)を取得。都市計画、土木分野には、情報科学を活用するには「もってこいのテーマ」が、たくさんあることに気づき、その一つが「都市計画を支援する3次元都市モデルの自動生成システムとその活用」である。それはGIS(地理情報システム)とCGの統合化したシステムが街並みの3次元モデルを自動的に作っていくもの。2009年6月、日本情報考古学会に投稿した論文「自動生成システムによる古代の建物の復元—美濃国分寺を復元する3次元モデルの自動生成—」で、日本情報考古学会の「堅田賞」を受賞。

趣味拝見

私は、今は研究が趣味という感じです。長時間、プログラミングして、3D建物が自動的にできるのを見ると、長時間の苦勞を忘れて、達成感で心は一杯になります。プログラミングがうまくいかないときは、カーッと力尽きるまで没頭します。よく考えますと、私は、松下電器とソニーに合計10年奉職していましたが、企業にいたときもそでした。結局、あまり変わっていない生活をしているのです。「人は最初の上司に似る」といいますが、客観的にみて、私は企業での生活で、大体人間が決まってしまったような気がします。

それでも、研究以外の趣味としては、「登山」と「柔道」です。この2つは、身の危険を伴うものです。風にあおられて谷底に転落、若い現役の学生に力任せに投げられて骨折とか。「柔道」の世界、「畳の上」では年齢や職位など無関係で、弱肉強食の世界で、弱い人がねじ伏せられるのです。「登山」も、仲間がいて、助け合っという姿が思い浮かびますが、遭難したとき、最後に頼りになるのは自分の脚力、持久力です。それで、日々、腕立て伏せ、腹筋などのトレーニングは欠かせません。



日本のソフトウェア産業と大学の役割

ITを中心とする新産業で学生が職を得るには、学生が実践的なプログラミング技術及びシステム開発能力を修得する

「レイツ・オブ・カリビアン」の「タコ人間」の制作者の発表を聞き、一流の研究者のCG製作の裏側を窺い知ることが出来ました。また、ポスターによる発表中、私の研究にグーグルの社員が興味を示してくれたことも印象的でした。当時はまだ、グーグルアースが本格稼働の前の状況で、私の研究、「電子地図に基づいて3次元都市モデル」を自動生成するという研究に注目してくれたのです。

今回の横浜のSIGGRAPH Asiaでは登壇する機会を得て、自動生成した朱雀門に代表される古代の門や五重塔などの「遺跡や古代の建物を復元するCG」を見ていただいたところ、さまざまな方面からこの手法を活用する企業の依頼をいただくなどたいへん高い評価をいただきました。



中国にも遅れをとっていると言われています。この遅れの原因として、日本の大学、企業における、ソフト開発軽視の体制があると考えられます。

例えば、日本を代表する松下電器でも、製品の仕様作成までは本部で行いソフト開発は「丸投げの外注」という事業部がありました。大学は、社会の動向に適合したpracticalな研究を行い、研究室を開発元とする応用ソフトを社会に還元するよつな教育ができることが望ましいと考えます。アメリカの大学を例にあげれば、大学発のソフトウェアは、Googleを始めとして数多くあげることが出来ます。学生がこの高度情報化社会に出て主体的に生きていくための拠り所とする「ITのわざ」を伝授し、問題にぶつかってもそれを正面から受入れ、何とか解決策を見出す「生き抜く力」を養ってもらつことが大学の使命と考えます。

岐阜大学地域科学部と共催で、 「高校生のためのオープンセミナー in 飛騨」を開催。

岐阜経済大学と岐阜大学地域科学部は連携して地域貢献事業に取り組んでおり、「高校生のためのオープンセミナー」をこれまで2回に渡り、岐阜・大垣会場で開催してきました。3回目となる今回は、岐阜県・高山市の後援を受け、11月1日(日)高山市の飛騨・世界生活文化センターで開催し、54名の高校生、高校の先生方の参加がありました。

午前の部は「大学で学ぶ、その魅力と醍醐味」をテーマに岐阜大学地域科学部の林正子教授が、人文学、地域学、日本近代文学などを通し、大学で学ぶ意義について講演しました。

午後の部では、「若者参加による中心市街地の魅力づくり—地元課題の解決型まちづくりの魅力と方法」をテーマに、岐阜経済大学鈴木誠教授および大学院修士課程1年の小川尚紀さんが、まちづくりや地域の活性化を考えることの魅力、また、若者参加の起業・商店街再生の全国事例などについて講演。

続いて、岐阜大学地域科学部の竹内伝史教授が「観光、交流、交流」をテーマに、地域の人々のくらしとともにある新しいタイプの観光産業について「スロートーリズム」という概念の下に説明しました。

その後、参加者は、各教授のもとグループごとにわかれ、教授の進行・指導によりフリートークを行い、地元地域の理解を深めました。

昼休みには、相談コーナーが設けられ、岐阜県職員や岐阜経済大学学生のブースなども設けられ、相談する高校生で賑わいました。



マイスター倶楽部が「かがやきまちかど講座(枞づくり講座)」を開催。

マイスター倶楽部が大垣市より委託をうけて企画実施している「かがやきまちかど講座」が10月24日(土)に開催されました。

第1回目は、枞工房ますやの大橋博行さんを講師に迎えての枞づくり講座で、大垣が生産全国シェアの8割を占める枞を作り、出来立ての枞で大垣の名水を味わおうという内容です。

当日は、小学生から70歳代までの22名の参加者がありました。

まずは講師の大橋さんから枞の歴史などについてお話をいただき、その後、各参加者は自分だけの枞(MYます)を作りました。はかりとしての枞は、近年では様々な形で用いられたり、縁起物として利用されるようになっています。

製作後、ノリが乾くまでの時間を利用して、他にもどんな使い方が出来るか、参加者同士でアイデアを出し合いました。

最後に、出来たての「MYます」を片手に水門川沿いを散策し、八幡神社の自噴水の水を味わいました。

参加者からは「体験型は楽しい。」「大垣のことを楽しみながら知ることができるのがよい。是非これからも実施してほしい。」「次回もぜひ参加したい。次がどんな講座なのか楽しみ。」といった声を寄せていただきました。



キャンパス 彩々 Campus Saisai

風間八宏氏を講師にお招きし、学会主催 公開講演会「スポーツと地域振興」を開催。

10月14日(水)、岐阜経済大学学会主催の公開講演会を開催しました。

講師には、現役時代、マツダS.C. サンフレッチェ広島F.C.で活躍され、現在はサッカー解説者としてもおなじみの風間八宏さんをお招きしました。

「スポーツと地域振興」をテーマに、風間先生が考えるスポーツの本来の姿、地域との係わり方、子ども達に技術の指導だけでなくスポーツができる環境を増やしたいことなど、熱のこもった講演に、200名以上の参加者の皆様が聞き入りました。



教育実習報告会を開催。

11月24日(火)、本年度教育実習を行った経済・経営両学部52名の学生が、3教室に分かれ、指導教員のもと報告会を行いました。

各学生は、自分の研究授業についてのレジュメを配布し、1名10分の持ち時間で、2~3週間にわたる教育実習での授業や部活動等の経験を報告しました。それぞれ実習において学んだこと、実習中の喜びや葛藤なども率直に語っていました。報告後は活発な質疑応答が繰り広げられ、特に報告者が実習先で学んできた教育方法に、他の学生の強い関心が集まっていました。

また、この報告会は、来年度教育実習を行う学生も希望により聴講することが認められており、後輩達にとっても貴重な学びの場になっていました。



外国人留学生による弁論大会で優勝。

11月28日(土)、岐阜県内の大学・短大で学ぶ8大学20名の外国人留学生による弁論大会が東海学院大学を会場に開かれ、本学より参加した董書君さん(上海财经大学よりの留学生)が、優勝しました。董さんは「スポーツから人生を学ぶ~私とテニス」をテーマに、中国で13歳から本格的にテニススクールに入り、厳しい練習に耐えて体を鍛え、強靱な精神力を得ることができた経験を語り、将来は若い選手を応援するために国際的な大会を運営する夢を語りました。また3位には、林海棟さんが入賞し、「大垣の魅力を伝えたい~ Think globally, act locally.」をテーマに、大垣、そして地方都市の魅力や、マイスター倶楽部での活動の経験から学んだことを話し、将来は日本学の研究者を目指し、日本のそして大垣の魅力を伝えたいと語りました。



こんにちは! 高校生の皆さん

海津明誠高校の皆さん

10月28日5-6時限目の時間帯に、海津明誠高校で、岐阜経済大学「学び塾」を開講しました。参加対象は1年次生全員で、約190名が希望の講座を受講しました。

学び塾とは、本学が昨年度から高大連携事業の一つとして、高校生の多様化する興味・関心に応え、大学の学びに触れる機会として開講する講座を意味し、8月には、6講座(各4回)を開講しました。

今回は、黒川博前学長、池永輝元学長をはじめ教員、スポーツ振興指導員ら8名が、海津明誠高校へ赴き、コミュニケーション、英会話、経済、経営、福祉、情報、スポーツ、現代社会の講座を実施しました。

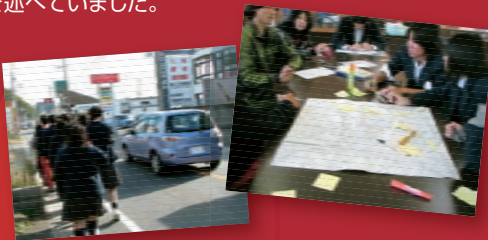


揖斐高校の皆さん

本学は高大教育連携協定の一環として、岐阜県立揖斐高校において、高大連携授業を実施しています。生活環境科福祉コースの2年生の生徒に対し、経済学部樋下田邦子准教授の指導のもと、3回の授業を行うもので、11月19日は、本学臨床福祉コミュニティ学科2年生の学生14名も協力し、フィールドワークを実施しました。福祉マップを作成するため、揖斐川町商店街周辺を実際に歩き、「子ども」「高齢者」「障がい者」「健常者」の4つの視点のグループにわかれて調査をしました。

その後高校へ戻ってグループごとに白地図に気づいたことを書き入れ、発表しました。

生徒たちは、「普段、何気なく通っている道だが、今日はたくさん町のことを知ることができてよかった」「高校生では気づかないことでも、大学生の方はいろいろ発見してすごいと思った」などという率直な感想を述べていました。



大垣養老高校の皆さん

12月11日(金)、高大連携協定の一環として大垣養老高校にて本学の教員による出張講座「学び塾」を行いました。講座は総合学科の1年生約120名を対象とし、ビジネス系列、会計系列、情報系列、生活福祉系列という4分野6講座を開講。「変化の兆しを読むために経営学を勉強しよう」「会計士と税理士はどこが違う?」「大切な人と人のコミュニケーションを考える」などのテーマで行い、皆、熱心に授業に取り組みました。

本学女子学生対象「輝く女性のためのサファイアプラン講座」を実施。

美しく輝く宝石—サファイア、その石言葉は、誠実、慈愛、賢明、徳望。石言葉どおり、聡明で誠実な女性になるためのマナー講座を、9月24日(木)、大垣フォーラムホテルにて実施しました。

メイク講座では、全員ノーメイクで来場し、化粧下地からはじめ、ファンデーションやアイシャドーの選び方、ぬり方、眉の書き方、チークの入れ方などを教えていただき、自分の肌色に似合う色の選び方などもレクチャーいただきました。

マナー講座では、お辞儀の仕方やお茶の配り方から、テーブルマナーなども学び、フルコースのランチで実践を行いました。

コミュニケーション講座では、自己主張しつつ相手も尊重するアサーティブネスの考え方を学び、バイト先というシチュエーションで、同僚に自分の要望をどのように伝えるかをロールプレイで実践しました。

講座終了後に学生にとったアンケートでは、「1日楽しく学べた。次回もあつたら参加したい。」「すごく自分のためになったと思う。知らなかったことやこれからの人生に役だつことがたくさん聞けて、役立ててみようと思ふようになった。」「などたいへん満足度の高いものとなりました。



本学学生が高山市のお助けサミットに参加し、集落支援体験を実施。

「地域フィールドワーク」(菊本舞講師担当)受講生ら21名が、10月17日(土)、野麦峠のお助け小屋にて高山市主催のお助けサミットに参加しました。これは、過疎地域の再生について、様々な世代・職業・居住地の参加者が共に考えようというものです。地域のために何かしたいと考える様々な参加者の発言に、学生も大いに刺激を受けました。

18日は集落支援体験を実施し、タカネコーン収穫後のマルチシートはがし作業や、牛舎の清掃を体験しました。



第6回岐阜経済大学レガッタ・第32回大垣市民総合体育大会ボート競技を開催。

10月25日(日)長良川国際レガッタコースにおいて、第6回岐阜経済大学レガッタ・第32回大垣市民総合体育大会ボート競技(同時開催)を開催しました。多くの方にボートを漕ぐ楽しさを知っていただき、ボート競技の普及につながることを目的としています。今回は学内関係者を含め約130名、6歳から72歳までの男女の参加がありました。

午前中は、ナックル艇という安定性の良いボートで、ボート部の学生達が漕艇の基本を指導しました。午後からは、初心者部、経験者部、女子部に分かれ、250mのレースを行い、優勝チームには表彰状と記念品が贈られました。

なお、本年度の日本大学選手権大会男子シングルスカルで、銀メダルを獲得した今井祐樹(経営情報学科4年生)、同じく女子シングルスカル5位入賞の堀田茉希(スポーツ経営学科3年生)の両

選手をはじめとするボート部員によるエキシビションも行われ、参加者の皆様にもその勇姿を披露しました。



ゼミ教育日本一を目指して 学内ゼミナール大会開催

参加ゼミ名	テーマ
大野ゼミA	プロ野球・Jリーグの衰退を防ぐには
谷江ゼミ	現代ドイツとヨーロッパ
岸ゼミC	アスリートの日常・競技ストレステラー認知とその解消法 ～スポーツ・コミットメントの視点から～
福地ゼミ	小学生を対象としたレクリエーション支援活動の取り組み
佐藤(俊)ゼミ	「日本人は生命保険好き」は本当か
安田ゼミ	デジタルメディアを活用したプロモーション
森ゼミ	大学東側水路の現在と過去 ～まちづくりとしての川づくり～
鈴木ゼミA	若者の性と生～新たな試みと情報発信～
岩坂ゼミ	地球環境と電気自動車
石原ゼミ	拡大する欧州連合
高橋(正)ゼミB	子ども達のスポーツ活動の現状と発展
小倉ゼミA	Aパルル業界分析 ～100年に一度の大不況 あれ企業はなぜ売れる～
樋下田基礎ゼミ	自然の恵み「水」を考える ～大垣の自噴水からできる地域のつながり～
大野ゼミA	Aクラス楽天ゴールデンイーグルスの経営戦略
斎藤ゼミB	食育から孤食を考える
高橋(正)ゼミA	子どものスポーツを取り巻く現状
樋下田ゼミ	共同売店と地域住民の助け合い ～人と人の繋がりを地域福祉から考える～
大野ゼミB	avexの成功要因についての分析
高橋(信)ゼミ	IT企業の経営戦略 ～携帯電話事業とゲームソフト事業の場合～
岩坂ゼミ	転換を迎えた日本型コンビニ
鈴木ゼミB	地域の安全・安心を確保する
野松ゼミ	危機に攻める中小企業
神谷ゼミ	バレーボールを用いた体育理論の授業研究
大野ゼミB	プロスポーツチームと地域の在り方
山田(社)ゼミ	ネットカフェ難民について
岸ゼミC	スポーツ選手のルーティーン行動の心理的影響
新家ゼミ	音楽療法と演奏活動の取り組み
小倉ゼミC	小売業サバイバル～不振続きの百貨店～
岸ゼミA	競技レベルから見た高校バレーボールチームの集団機能 ～集団凝集性とソーシャルサポートから迫る～
菅谷ゼミ	日本の年金の現状～課題と改革への視座～
小倉ゼミB	航空業界の明暗—JALとANA—
井戸ゼミ	学内物々交換オークション web サイトの開発
斎藤ゼミA	オリンピックの経済効果
稲垣ゼミ	スポーツビジネスにおける優良企業
宇野ゼミ	次世代燃料とエコカー

なお、発表した内容は最終的に「学生論議」として一冊にまとめられ、大学の学びの集大成として結実します。

学生の発表後は、指導教員とは別の複数の教員による審査があり、5会場それぞれで1チームの優秀ゼミが選出されます。例年、多くのゼミが、この大会に向け、切磋琢磨し、高い評価を受けるゼミが多くなっています。また、各ゼミがこの大会に参加することによって、共通の目標に向け共に学び、協力し合い、学生達が更なる課題に向かって学習を深める契機ともなっています。

12月2日(水)、第37回岐阜経済大学ゼミナール大会を開催しました。ゼミナール大会とは、それぞれのゼミごとにテーマを持ち、協力して調査・研究を行い、まとめあげた成果を発表する大会です。大会の準備や運営を学生が主体的に進める本学ゼミナール大会は、これまで脈々と36年間続いており、本学が誇る伝統事業です。

今年度は、26ゼミ35チームが参加しました。



神谷ゼミ
バレーボールを用いた体育理論の授業研究



佐藤(俊)ゼミ
「日本人は生命保険好き」は本当か



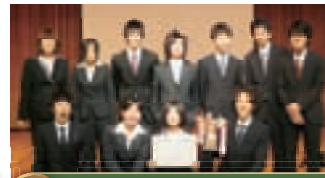
山田(社)ゼミ
ネットカフェ難民について



高橋(正)ゼミB
子ども達のスポーツ活動の現状と発展



小倉ゼミB
航空業界の明暗—JALとANA—



樋下田ゼミ
共同売店と地域住民の助け合い
～人と人の繋がりを地域福祉から考える～

学内ゼミナール大会を終えて

ゼミナール大会運営委員長 中井辰也
 経済学部経済学科3年 天津高校出身



今年で37回目を迎えた「学内ゼミナール大会」が開催されました。この大会はゼミのメンバーで研究したことを発表する大会で、当日はたいへん盛り上がりました。このように全学ぐるみで研究発表を行っている大学は全国にほとんどないそうです。

今回は26ゼミ、35チームが参加し、どのグループもたくさん時間をかけて調査、研究を行いその成果をしっかりと発表していました。私にとって、この大学に入ってから2度目の参加となり、発表することに関してはあまり不安はありませんでした。しかし今年は、ゼミナール大会運営委員長として、大会全体をとりまとめていかないとけないという大役がありました。一人の力ではどうすることもできませんでしたが、たくさんの方々の協力のおかげで無事に乗り越えることができました。特に、論文を作成するにあたりアドバイスをいただいた斎藤悦子経済学部教授や、大会の準備に協力してくれた教務課職員の方皆さん、大会当日に司会やタイムキーパーを務めてくれた運営委員の学生の皆さんにはとても感謝しています。ゼミナール大会で発表したことの経験や知識を自分たちの自信にして今後の大学生活に役立てていってほしいと思います。

教員人事

学内役職者

2009年12月1日就任

- 木村 隆之 経済学部長(経済学部教授)
- 野松 敏雄 経済学部長兼大学院経済学研究科長(経済学部教授)
- 小倉 幸雄 教務部長(総務学部教授)
- 高橋 正紀 学生部長(総務学部教授)
- 竹内 治彦 キャリア支援部長(経済学部教授)
- 斎藤 悦子 図書館長(経済学部教授)

名誉教授の称号授与

2009年4月1日付

- 小野 勝敏 名誉教授 1977年就任 前経営学部教授